

# 追跡

# 開設40年 どうする？ どうなる？ 山香荘

平成25年に新たに人工芝グラウンドを整備した、夕陽の丘神田・山香荘。既存の天然芝グラウンドと合わせて、グラウンドは年間約3万人に利用されています。一方で、老朽化が進む山香荘本館は、耐震性の問題もあり、今年度から宿泊業務を行っていません。議員と語る会での質問・意見も多い山香荘の現状をまとめました。

## 宿泊業務が廃止に

平成30年3月定例会、山口町長は、平成30年度から山香荘の宿泊業務を行わない方針を示し、会計の明確化のために設けてあった特別会計の廃止と、利用規定を定めた条例から宿泊料に関する規定を削除する条例を提案した。

執行部の説明では、宿泊営業を続けていく場合は、約7700万円の改修費用が必要とのことであった。一方で平成29年度は520万円だった指定管理委託料の支出は、業者との協議の結果、平成30年から2200万円に引き上げられる方針も示された。

議員からは、「5年間で1億1千万円の指定管理料を支払うのなら、7700万円の改修費用が捻出できるのではないか」、「宿泊業務をやめれば、山香荘が尻すばみになる」、「2200万円の指定

管理料は高すぎる。」などの批判もあり、宿泊業務を廃止する提案は、賛成7反対8の僅差で否決された。

しかし、宿泊などの営利事業を行うために必要な特別会計を廃止する提案は、賛成9反対6で可決した。これを受け、町は、宿泊利用の規定を残したまま、平成30年4月から山香荘本館の宿泊業務を廃止し、あわせて、くれハウス（平成7年に広島県呉市関係者から寄贈）、バンガロー4棟の貸し出しも廃止した。

## 施設更新にも費用が

現在、山香荘本館や併設のアプヘルハウスは、グラウンド利用者の休憩場所、ミーティング場所として利用されている。

人工芝、天然芝の2つのグラウンドは各種サッカー大会やスポーツ合宿などを中心に県内外から多く利用されている。とはいえ、当

初期待されていた大山寺周辺のスポーツ合宿誘致にどれだけの効果があったか、十分な検証はまだできていない。

夕陽の丘神田・山香荘が、神田観光リンゴ園の整備とともに、地域活性化の拠点として整備されてから40年、大規模修繕は見送っても、今後の維持管理をどうするか方向性は定まっていない。

町を二分する議論の末に、完成した人工芝グラウンドも6年が経過した。数年後には経年劣化した人工芝の更新費用に多額の支出も必要になる。

施設をどう生かしていくか、さらなる議論が必要になっている。



老朽化した本館